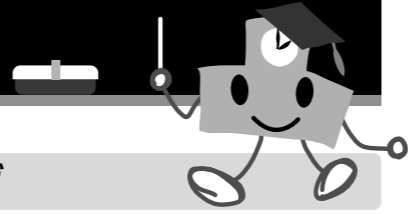


# 委員会活動でエコに取り組む。生徒の自主性を尊重した新たな活動「エコレゾ」。

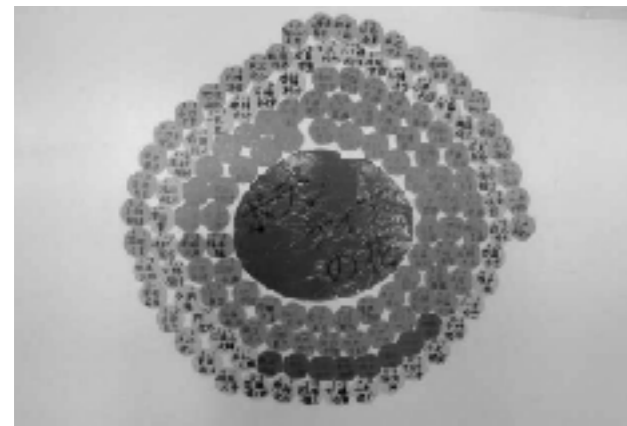
各委員会でエコを呼びかけ、実践する取組を開始。委員会活動から学校全体の取組へと広がることで、生徒の自主性・環境への意識が高まることに。



## 内容 委員会が考え 全校生徒で取組む エコレゾ

「エコレゾ」とは、エコ・レゾナンス (eco-resonance) の略。レゾナンスは共振・共鳴の意味で、「無理なくポジティブなエコ意識を共振させていこう」という意味の言葉。本校の「エコレゾ」の活動は、「各委員会でエコにつながる取組を考え、呼びかけていこう」というもので、平成20年度から始まった。

環境委員会では、ごみの分別を指導しており、各クラスで一般・資源・もやせないごみの3種類の分別が定着した。また、年に3日間、登校時に全校生徒で通学路のごみ拾いを行っている。集めたごみは町内会の方に指導していただきながら6種類に分別。ごみ拾いの際に使用する軍手は町内会から寄付していただいたものである。



「ボランティアの花」パネル

生活委員会では、紙の再利用を啓発している。各学級には平成21年度から「地球を守ろうの箱」が設置されており、裏面が使用されていない紙を集めている。回収した紙は、生徒会の会議の資料やアンケート用紙などに再利用している。さらに今年度からは両面使用済の紙を集める箱も設置した。集まった紙は古紙回収に引き取ってもらい、資源として活用している。

体育委員会では、「給食週間」を設け、食べ残しを減らすように呼びかけする等の活動を行っている。



教室に設置された紙回収箱

## 効果 自ら行動することで環境への意識が向上

ごみの分別は日常的に行っていくべきことではあるが、委員会で呼びかけをすることでさらに一人一人の意識が高まるようになった。紙の回収についても「地球を守ろうの箱」を設置したことで紙を無駄にせず、資源を大切にしようという気持ちが育まれてきている。また、地域の方と様々な活動を行うことで、自分も地域に必要とされている、役に立っていると実感することができる。

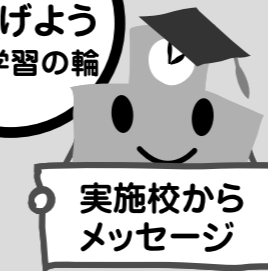


「地球を守ろうの箱」



回収された紙の枚数

広げよう  
つなげよう  
環境学習の輪



実施校から  
メッセージ

このほかにも本校では、町内会の方と一緒にボランティア活動を行っており、生徒会で参加者を募り、川の清掃をしたり、独居老人のお宅の手伝いをしたりしています。

隣の北野台中学校の生徒と一緒に「社会福祉法人」の方が調理した400食分の夕食の宅配をお手伝いしたり、冬期には雪かきしたりする活動にも取り組んでいます。校舎の1階に「ボランティアの花」として、ボランティア活動に参加した生徒の名前を貼り、花を作ってもいます。

本校では、生徒会が中心になり呼びかけている活動が多数ありますが、生徒会役員以外の生徒も、やらされているのではなく、自分たちも生徒会の一員であると考え、自発的に行うという意識づけをすることが大切です。

知識はたくさん蓄えられますが、それを行動に移すのは難しいものです。だからこそ環境活動を日常の活動として根付かせ継続していこうとするときには、まず行動に移しやすい、小さなところから始めるのがよいのではないのでしょうか。